

DUKE ACES

76/45

DOR-0040
STEREO
45rpm

SIDE 1

1. ドライ・ボーンズ
DRY BONES (Traditional) 2' 47"
2. トルコ・マーチ
MARCHE TURQUE (W.A. Mozart) 1' 38"
3. グリーンスリーブズ
GREENSLEEVES (Traditional) 2' 25"
4. ホエン・ワズ・ジーザス・ボーン
WHEN WAS JESUS BORN ♪ (Traditional) 1' 59"

SIDE 2

1. ゴー・ダウン、モーゼス
GO DOWN, MOSES (Traditional) 3' 05"
2. イン・ジ・イーヴニング・バイ・ザ・ムーンライト
IN THE EVENING BY THE MOONLIGHT (N. Simone) 2' 36"
3. 2声のためのインヴェンション
INVENTION Für 2 PARTEN C-dur BWV.772 (J.S. Bach) 1' 21"
4. 女ひとり
ONNA HITORI (R.E.T. Izumi) 2' 49"

DAM

★制作にあたって

DAM オリジナル録音第3弾は、DAMの念願である本格的ヴォーカルを取り上げる事になりました。

そう、誰一人として知らない人のいない、結成25周年を迎えようとしているコーラス・グループ、“デューク・エイセス”を、76cm/sec録音、45 r.p.m.のハイ・レベル・カッティングによるDAMの自信作です。“熱唱するデューク”“円熟したハーモニーのデューク”を楽しみながら、あなたのオーディオ・システムを徹底的にチェック出来る

様に“デューク”のレパートリーの全てのジャンルから、多くの曲を実際に聴き込んで厳選した上、更に東芝EMIの最新技術を駆使して制作にあたりました。

一般的には、バックの演奏を先に録音し、後から歌をかぶせる方法がとられるわけですが、今回は特に、リズム感やタイム感覚、雰囲気などを十分に出せる様に考慮して、東芝EMIの第1スタジオを使っただけの同時録音で“デューク”の全てを盛り込んだオーディオ・チェック・レコードを作りました。

“デューク”が永年にわたって歌い込んだ得意

中の得意の曲〈ドライ・ボーンズ〉は、軽快さ、力強さ、ハーモニーの美しさがすばらしく、“デューク”の特長を100%出し切った、出色の出来映えです。また無伴奏で歌う〈イン・ジ・イーヴニング・バイ・ザ・ムーンライト〉のハーモニーの良さ、またイギリス民謡として古くから有名な〈グリーンスリーブズ〉は霧深い田園のグルーミーな感じを“デューク”はその独特のハーモニーで心にくいまでにかもし出しています。〈女ひとり〉の曲のイメージを代表するような琴の響き。等々、音楽そのものを楽しみながら、“オーディオ・チェック”用として、このDAMオリジナル録音盤を末

永く御愛用いただければ幸いです。

今後、DAMといたしましても、会員の皆様に御協力を頂きまして、共に、オーディオ・ライフの飽く無き探求に全力を上げて行く所存ですので、よろしく御支援下さいます様、お願いいたします。

最後に、このDAMオリジナル録音盤の製作にあたりまして、絶大な御協力を頂きました“デューク・エイセス”の皆様、“東芝EMI”関係各位の皆様にご心から御礼申し上げます。

DAM推進委員会



★デューク・エイセスについて

デューク・エイセス《選りすぐられた公爵達》は昭和30年8月1日、当時流行していたリズム・アンド・ブルースを主としてうたうグループとしてスタートしました。歯切れの良いリズム感、デューク・エイセスの特色としてその頃から広く注目を集めていました。

その後ゴールデン・ゲイト・クワルテットのうたう黒人霊歌に傾倒し、黒人霊歌のデューク・エイセスとまでいわれました。その一途な勉強で身につけた、パンチのきいた独特な唱法はジャズ・ヴォーカル・グループとしての今日の地位が達成、確立された基盤となりました。その間ジャズはもとより、ポピュラー・ソング、各国民謡、童謡、ホーム・ソング、オリジナル・ナンバー等、その広範囲にわたるレパートリーは、1000曲を数えるに至りました。

ともすれば、流れ作業の如く、大量に、安易に歌が作られては消えてゆく目まぐるしい流行歌の世界にあって、デューク・エイセスはシリーズものに歌づくりの姿勢を見つけました。コーラスとしてはユニークな題材として喜ばれている、落語のうたシリーズも「長屋の花見」で第7作となりました。又、5年がかりで、永六輔氏、いずみたく氏、東芝EMIと共に日本中を歩き廻って作りあげ、歌いつづけてきた「にほんのうた」シリーズの大作は42年度レコード大賞企画賞を受賞し、44年10月に完成、44年度レコード大賞特別賞を受賞しました。旅人のとらえた新しい郷土のうたとして、46都道府県にわたる歌作りの中で、デューク・エイセスの大人のグループとしての成長と一つの生きる道を学びとった気がします。

そして私達は50年の結成20周年までに完成させようと「DUKE 20」と題し「きく歌」「みる歌」「うたう歌」のキャッチ・フレーズと平均年齢37才になったコーラス・チームとして大人の歌を作り、歌おうとスタートしました。内容としては、私達の生活にまつわるすべてを歌の題材として取りあげ、「デューク・エイセス博覧会」「デューク・エイセス気象台」「デューク・エイセス衣装箱」「デューク・エイセス望郷抄」のLP4枚で完成しました。

48年秋、この企画のスタートとして、各地でコンサートを開き昭和49年度芸術祭優秀賞を受賞しました。又、51年には日本の歌パートIIとして歴史に題材を求めLP3枚で完成しました。

このように私達デューク・エイセスは、いつまでも皆さんの心の中に生き続ける良い歌を、そして大人のグループとして、意欲的な活動と勉強を続けていきたいと思ひます。

谷 道夫 (バリトン)



デューク・エイセスの中、ただ一人の生え抜きで、23年もの長い間その生来のがんばり精神でつき進み、今日のデュークにのし上げた九州男児です。温厚な中にもきびしい一面を持つリーダー。

一見落着き風だがソコツにおいては谷口と覇を競う。冷蔵庫を扇風機と静かに宜う。駐車場を車止め広場と、とっさに口走る、まさか老化現象とは思えないが言語障害の気味あり。

最近やたらせり出して来たお腹を見やり、深い溜息と共に嘆き悲しむさまは哀れと云うべきか、人にゴルフを勧められめきめきと腕を上げたのまではよかったが、依然としてウエストは細くならず、これは「遠心力で皮下脂肪が集まってくる」とは本人の科学的な弁。フカの如く睡眠をむさぼり、イビキにて人を悩ませ起きては荒武者の魅力に富むが、やくざ映画に涙を流し、少年マガジンにこぶしを握るワリと単純な男である。

吉田一彦 (セカンド・テナー)



商都大阪に生れ育つ。物腰やわらかく決して人を怒らせない。ものぐさの多いデュークにあってひとときわ社交家としての才をふるう。豊かな情感の持主でおしゃれの大家、「誰ですおしゃれと似合うは違うなんて言う人は！」即ち身だしなみの良さを表わす。作った洋服5万着、足を向けて寝られぬ洋服屋一家もあるとかないとか。

ステージでは甘い声で女性の腋の下をくすぐるから良くモテル、人はヤキモチ半分に〔婦人会長〕と呼ぶ。少々女性に甘いのは否めないがこれは芸能界にたずさわる人の亀鑑と賞めそやるべきか！合羽からげて三度笠、はいたわらじに血がきよう、見かけによらず大時代的男の心意気を見せて人を戸惑わせる事もしばしば。

鋭敏な運動神経の持ち主で特に指先の細工はまさに芸術品、日本一の宮大工になっていたかも。早くも一粒種の美貴ちゃんが時計をかたっぱしからの分解組立をやって近所の話題になっているとか、やっぱり血筋は争えぬもの。おかげで親は古時計集めに奔走している現状。

横野義孝 (バス)



文字通りバスそのものである。日本人として一番低い声ではなからうか。一声うなると本人に敵意はないのだが、ふりかえって身構える人がいる。満面笑みをたたえ、ともかくやわらかく話をと涙ぐましく努力をつづけている姿は立派。

デュークきってのものぐさ者。動くお腹がへる

と、そっぽを向くが、寡言黙行の士と見抜いたり。コーラスの虫で集めたレコード500枚。

こと車と音楽の話になると口火を切った連射砲の威力を発揮する。特に車に関しては、世界各車年代別による下取り値段にまで精通し、人をして驚嘆せしめる。一度捉ったら夜のしらむことを覚悟せねばなるまい。一旦気が向くと、とことんまで人の面倒を良く見る。車のことでお悩みの方は一度相談あれ。沈着物忘れをしないことで有名。いつも最後に歩いてもらいたい人である。

谷口安正 (トップ・テナー)



メイド・イン長崎。トップ・テナーのくせに、しゃべるときは、ベース並みの低い声。音域の広さと歌唱力に定評あり。青山学院英文科、合わせてマージャン、パチンコの奥儀をも修得。勤勉意欲旺盛にしてモダン・ジャズキチ、又食欲旺盛にして常時二人前。演歌を口ずさみ、蠟結染めと庭いじりに親しみ、白土三平を小脇に美術館に通う。童心なれど才ばしり、天気によって気分は変れど寝起きの悪さには幾春秋も及ばず。

思慮遠謀なれどソコツ者。こんな事があった。ある田舎の駅、プラットホームで春の日射しを浴びながらのんびりと汽車の来るのを待っていた。突然「忘れものですよー！」ふりかえると旅館の女中さんが、ハンガーにかけた洋服を改札口に身をのりだして振っていた。本人は何を着ていたんだらう？

人類ゴウケツ科に属す。

★曲目解説

●ドライ・ボーンズ DRY BONES

有名な黒人霊歌で、スピリチュアルなヴォーカル・グループ、デルタ・リズム・ボーイズがテーマに使っていたこともある曲。

足の指の骨から頭蓋骨、次は頭蓋骨から足の指の骨までと歌っていく、リズムで楽しい曲ですが、歌いこなすには正確な音程とリズム感を必要とします。

●トルコ行進曲 MARCHE TURQUE

原曲はW.A. モーツァルトのピアノ・ソナタ イ長調K.331の第3楽章です。

ジャズ・ヴォーカルでのスキヤット唱法は、このデューク・エイセスはもとより、スウィングル・シンガーズでもおなじみですが、力強い主部とオーブン・ハーモニーの中間部とのコントラストが聴き所でしょう。

●グリーンスリーブス GREENSLEEVES

イングランド地方の古謡で16世紀ごろから歌われていた曲です。

優美で親しみのあるこのメロディーは現在でもクラシック、ポピュラーを問わず種々の編曲がなされ、世界中の人々に愛され歌いつがれています。

●ホエン・ワズ・ジーザス・ボーン WHEN WAS JESUS BORN?

アメリカ南部で愛唱されてきた曲ですが、ゴスペル・ソングでは「ブラック・ナティヴィティ」に使われ、又、オフ・ブロードウェイで、のちにヨーロッパにも紹介され大変な人気を得ました。リズムカルで楽しい曲ですが、デュークのアレンジではベースの響きが素晴らしいものとなっています。

●ゴー・ダウン、モーゼス GO DOWN, MOSES

エジプトの奴隷として重労働を強いられていたユダヤ人を解放したモーゼを讃える歌で、アメリカ黒人の心をいやす曲として歌いつがれてきました。ニグロ・スピリチュアルを代表する素晴らしいもので、ジャズの誕生・発展に見逃す事の出来ない曲です。

●イン・ジ・イーヴニング・バイ・ザ・ムーンライト IN THE EVENING BY THE MOONLIGHT

ニーナ・シモンも歌っている古いフォーク・ソングですが、無伴奏でうたう、いわゆるバーバー・ショップ・スタイルで歌っています。このハーモニーのスタイルがフォー・フレッシュメンやハイ・ローズに受けつがれました。おおらかなメロディーとハーモニーの響きはアメリカ大陸の古き良き時代を十分に感じさせてくれます。

●2声のためのインヴェンション INVENTION Für 2 PARTEN C-dur BWV.772

原曲はJ.S. バッハのクラヴィーアのための作品ですが、このようなクラシックをジャズ風にアレンジして演奏される事は最近盛んに行なわれています。

特にこの曲ではスキヤットの響きがオリジナルにマッチして、清楚で敬虔な雰囲気良く表われています。

●女ひとり ONNA HITORI

永六輔、いずみたく、そしてデューク・エイセスによって広く親しまれている「にほんのうた」シリーズの中の京都を歌ったものです。特にこの「女ひとり」は大ヒットし、老若男女を問わず誰れでも口ずさむこの曲は、日本のスタンダード曲とも言えます。



●「にほんのうた」第1集
TP-72104 (¥2,300)

- 君の故郷は
- ホップ・ファイホー
- こけしのうた
- いい湯だな
- みすずかる
- ロックン・ロール
- 黒部四代
- 女ひとり
- 涙は真珠
- 銀杏並木
- 別れた人と
- 困るぞなモシ
- ぼた山
- 燃えろ若者

●「にほんのうた」第2集
TP-72105 (¥2,300)

- 港のためいき
- ボーイズ・ビー・
- アンビシャス
- 十和田の底に
- 柑がすり
- ひとり旅
- 茶茶茶
- フェニックス・ハ
- ネムーン
- 手づくりの故郷
- 隠岐の鈴
- うるめいわしの歌
- オランダ坂をのぼろう
- ここはどこだ

●「にほんのうた」第3集
TP-72106 (¥2,300)

- ベリョースカ(白樺)
- 俺とおふくろの唄
- 歌おう滑ろう
- 我等の庄助さん
- 東京のせがれ
- もみじ追分
- 終電車のブルース
- 帰ろう港へ
- 奈良の鐘
- 岬にきました
- 風が消して行く
- 肥後熊本さ

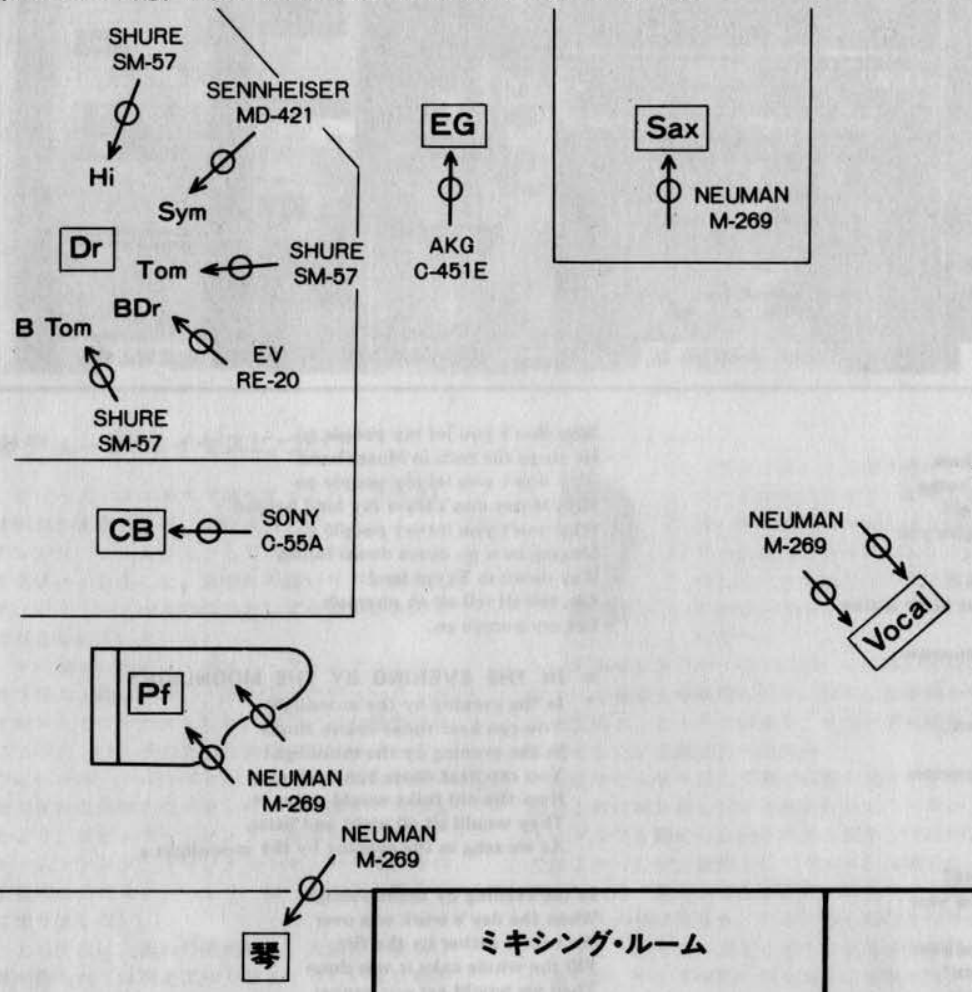
●「にほんのうた」第4集
TP-72107 (¥2,300)

- 明日の故郷
- 僕達の道を
- マンボ鈴
- 哀しい波紋
- THE ZEN
- 筑波山麓合唱団
- 初恋の人は
- 潮風の中で
- この橋を渡ったら
- 伝説の町
- 踊り疲れて
- クンビーン大権現

●デューク・エイセス(ダイレクト・ディスク)
LF-95015 (¥3,000)

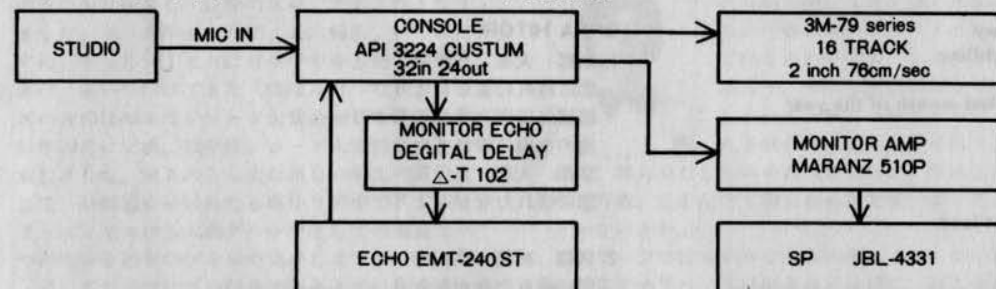
- トルコマーチ
- 村の田園交響楽
- ドライ・ボーンズ
- 誰も知らない私の
- 悩み
- ジェリコの戦い
- フィーリング
- イン・ジ・イブニング・
- バイ・ザ・ムーンライト
- 愛しのアイーダ
- 恋人よ我に帰れ
- 君住む街角で
- 明日に架ける橋

★スタジオ配置図 (昭和53年5月4日東芝EMI第1スタジオにて録音)

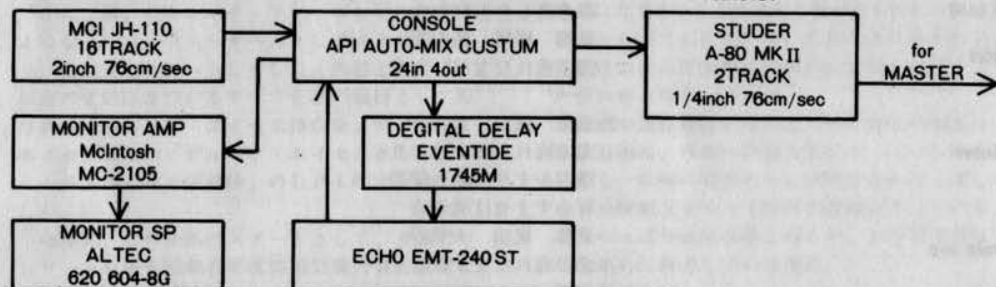


★ブロック・ダイアグラム

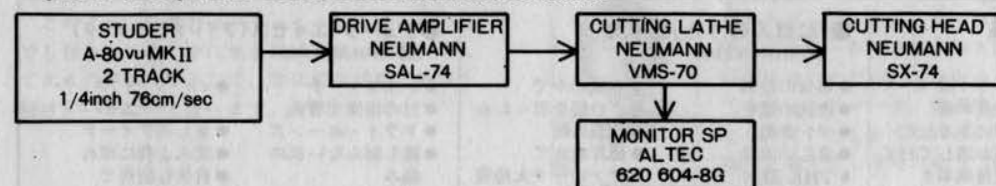
〔レコーディング〕 (USED TAPE AMPEX #406 2inch) S.53.5.4.



〔リ・ミックス (トラック・ダウン)〕 (USED TAPE AMPEX #456 1/4inch) S.53.5.8.



〔カッティング〕 (USED CUTTING DISC TRANSCO) S.53.5.9.



★デューク・エイセスの録音に立ち合っ

オーディオ・チェック・レコードという、とかく打楽器などを加えた、パルシブな要素を強調したものが選ばれがちであるが、このレコードはちょっと趣を異にし、まもなく結成25周年を迎えている男声ヴォーカル・グループ、“デューク・エイセス”の登場である。

レコーディングは5月4日、東芝の第1スタジオで行なわれた。

私は午前9時30分からスタジオ入りと聞いていたが、すこし寝ぼけてしまい、10分程遅刻してしまった。しかし、朝早くからのレコーディングでもあり、どうせ全員揃っていないだろうなんて考え、あまり気にしなかった。だが、それは大まちがひ。

スタジオに着くと既にバックのミュージシャンもデュークのメンバーも全員揃いサウンド・チェックの最中であつた。このあたりから、あらためて彼等の真面目さを確認した。

コントロール・ルームからスタジオ内をみると、普段と異なりコントラ・バスと琴が並んでいる。

また、一般的には、こうした歌ものを録る時には、バック演奏を先に入れ、後から歌をカブせるのだが、今回の場合には、リズムやタイム感覚といった点を考慮したデューク側とDAM側の意見が一致した同時レコーディングで行なうことになっていたらしい。もっともこれより少し前にダイレクト・カッティングを経験しているデュークにとっては、同時録音などは、ずっと気が楽であろう。

そして、しばらく後、セッティングが決まり、彼等の得意な曲“女ひとり”と“ドライ・ボーンズ”をリハーサルを兼ねてテスト録り。デュークのメンバーもコントロール・ルームに来て、最終的なバランス・チェックの後、いよいよ本番のスタート。時間は10時少し過ぎであった。

1曲目は今や知らぬ人はいないくらいおなじみのナンバー“女ひとり”である。

琴が加わったのはこの曲のみであつたのだが、その琴の音がなんとも印象的に響き、私の寝ぼけた頭の中には、その清しさをの為にいっぺんでスッキリとさせられた。

また、リハの時にはベースパートを歌う横野さんなどは“朝からのレコーディングなんて珍らしいので、こんな時間ではどうもいま一歩調子が出ない”とボヤきながらも、本番ではなかなかどうして、コントロール・ルームにいる我々にはそんなことは微塵も感じさせない歌いっぷり、流石というほかはない。

一度プレイバックした後、もうワン・テイク歌い、わずか2テイク目でOK。所要時間は約20分という素晴らしいである。

2曲目は、黒人霊歌として有名な、これもデュークの大得意とするナンバー“ドライ・ボーンズ”。こちらも彼等が永年歌い込んだ曲だけにテスト録り後のワン・テイクでキマリ。

この曲は半音ずつ変化してゆくという特異なコード進行を持つものであり、音程を正確にとるのは、かなり難しいと思うのであるが、それを、なんと1回でOKを出すあたり、彼等の安定した実力にはまったく頭がさがってしまう。

3曲目は、ジャズ界の聖者、J・コルトレーンをして、“世界で最も美しいメロディーを持つ民謡”といわしめたイングランド古謡、“グリーンズリーヴズ”である。

この曲は、英詞の発音、アクセント、ブレスの箇所などに関してメンバー全員で細かくチェックを重ねたので、他の曲よりも若干時間がかかったが、それでも45分程、2テイクめでOKが出る。

ここでは、同一パターンのリズムを刻む、ウッ

ド・ベースとバスドラの分離と4人の創り出す美しいハーモニーが一つのチェック・ポイントとなるであろう。

その後も、全てこんな具合にスムーズに進み、初めてレコーディングされた“ゴー・ダウン・モーゼス”、ベースとドラムだけのバックに乗った“二声の為のインヴェンション”やコーラスのみの“イン・ジ・イヴニング・バイ・ザ・ムーンライト”など全8曲を録り終えたのは午後1時30分頃であった。こんなに快調なペースで終るレコーディングも珍しいであろう。

この様にいろんな意味でバラエティーに富んだこのアルバムは、同時期に発売されているプロユース・シリーズのダイレクト・カッティング盤と、曲目もいくらかダブっている。しかし、当然、使用マイク、楽器編成、配置などに相違があるだろう。そこで、そういった種々の異なる条件のもとで、どのように音が変っているか、また彼等の声質に差がみられるかどうかなど、色々対比させて聴くのも面白いだろうし、より確かな再生装置のチェックが可能になるであろう。

なんにしても朝早くからのレコーディングにもかかわらず、相変わらず、素晴らしいハーモニーを聴かせてくれたデュークの皆さん、ご苦労様でした。

小林 貢

●30センチ45回転レコードの取扱いについて

このレコードは、通常の33 $\frac{1}{3}$ 回転レコードと変った点はありませんが、念のため次のことに御注意下さい。

- (1)オートプレーヤー、オートチェンジャーでも使用出来ますが、ある特殊なものでは完全な自動演奏が出来ないこともあります。このような場合、手動方式に切替えてお取扱い下さい。
- (2)33 $\frac{1}{3}$ 回転レコードより線速度が早いので、針先のトレース性は良くなりますが、カートリッジを含むトーンアームの慣性などで軽針圧の場合正確にトレースしないこともあります。歪みなどの恐れのある場合針圧を許し得るまで増して下さい。
- (3)回転が早くなるために、レコードの反りの影響が33 $\frac{1}{3}$ 回転に比べて出やすくなります。レコードの保管、取扱いには充分注意して下さい。

- このレコードはカッティングレベルが一般のレコードに比べて大幅に高くなっておりますので、カートリッジアームの調整が悪いと歪や針飛びを起すことがありますので御注意下さい。
- 再生する部屋の温度が低いと、カートリッジが正しく作動しないことがありますので室温を15℃～20℃位に保って下さい。

レコード材質——プロユース材料使用

ディレクター……………小山 正敏
サウンド・エンジニア……………高橋 英男
テクニカル・エンジニア……………河村 正一
カッティング・エンジニア……………竹内 昭五
フォトリグラファー……………宮崎金次郎
ジャケット・デザイナー……………押山 正道
ジャケット・エディター……………松葉 良
企画……………第一家庭電器株式会社DAM
製造……………東芝EMI株式会社